

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

こどもの病気対策法⑦①

— ことばの発達編 —

津久見中央病院 リハビリテーション部 三代 麻央

こんにちは。津久見中央病院・言語聴覚士の三代です。

さて、皆さんは、ことばを知らない赤ちゃんがどのようにしてコミュニケーションをとり、ことばを獲得していくのかご存じですか。

ことばによるコミュニケーションを習得する前に、子どもは泣き声・笑顔・視線の動き、からだの動きなどを使って、周囲の人との関係を形成していきます。この頃は大人が一方的に解釈して反応をします。例えば、泣く子どもに「おなかかすいたかな？」と言いながら授乳をする。このような経験を通して、視線や体の動きを使って、大人に直接的な行為を求めるようになります。こうした一方的な関わりが、その後の子どもからのコミュニケーションの動機づけとなります。

生後6〜7か月になると、子どもは周囲への関心が高まり「アーアー」と声をあげたりするようになります。それに気づいた大人は「ぶーぶが欲しいのね」と言いながら車をとってあげます。こうして大人と子どもの双方のやりとりが成立し始めます。

8か月頃から「ダメ」ということばを聞くと、泣き出すなどの行動がみられ、9か月を過ぎると「バイバイ」という手を振るなど、音の連なりがある動作の表現が出来るきます。10か月の乳児は平均58語、12か月には115語が理解されていると言われています。

ことばでは10か月で「ママ・ネンネ」など、人のことばを真似するようになり、10か月で意味のある言葉が3語、12か月で12語といわれています。このように子どもは生後1年間の間にことばによるコミュニケーション行動を獲得していきます。1歳半頃にはことばが爆発的に増加し、その後3歳で1000語、4歳で1500語、5歳で2000語、6歳で3000語と推計されています。

このように、ことばの発達はまだ、ことばを知らない赤ちゃんの頃から密接に関わっています。周りの大人が、赤ちゃんの頃からたくさん話しかけ、言葉の発達を一緒にみていきましょう。疑問に思うことがあれば、いつでも当院にご相談下さい。

子どもの言語発達の目安

理解

- 生後6〜7か月頃 「アーアー」と声をあげたりする。
- 8か月頃 「ダメ」ということばを聞くと、泣き出す。
- 9か月頃 「バイバイ」という手をふる。
- 10か月頃 平均58語を理解している。
- 12か月頃 平均115語を理解している。

表出

- 生後10か月頃 意味のある言葉が3語程度で。
- 12か月頃 意味のある単語が12語程度で。
- 1歳半頃 意味のある単語が爆発的に増加。
- 3歳頃 意味のある単語が1000語程度で。
- 4歳頃 意味のある単語が1500語程度で。
- 5歳頃 意味のある単語が2000語程度で。
- 6歳頃 意味のある単語が3000語程度で。



注：津久見中央病院にて、「こどもの病気に関するミニ講演会」を月1回（原則第3木曜日17時〜17時半）に開催しています。参加自由です。
また、津久見市では、「こどもの病気とその対策法フローチャート」を発行しています。必要の方は、津久見市役所健康推進課 ☎82-9523